

住宅白書 ○現状のまとめ、●課題		視点	基本方針	施策展開の方向
(1) 住宅ストック	<ul style="list-style-type: none"> ○住宅総数は増加しており、住宅は量的に充足 ○民間借家に居住する世帯の住宅性能への満足度は低い傾向 ○新築住宅の平均面積は概ね横ばいで推移。中年単身世帯で最低居住面積水準未達の割合が高い ○小規模で比較的築浅なマンションが多いが、今後高経年化が予測 ●持ち家、借家に関わらず、省エネ化、バリアフリー化、耐震化等の性能向上が求められている ●今後、小規模マンションが高経年化していくのに伴い、区分所有者の修繕費用負担等の増加が予想 ●管理組合役員の担い手不足や、組合活動等に無関心な区分所有者が増加傾向。改善事例など具体的な対策の情報共有が必要 	住まい	1. あらゆる住宅の質の向上	(1) 循環型社会への対応
				(2) マンション管理の適正化、再生
				(3) 総合的な空き家対策
(2) 居住者	<ul style="list-style-type: none"> ○今後15年間、人口は増加 ○単身世帯が全体の約60%、単身世帯のうち若年世代が40% ○単身・若中年夫婦・子育て世帯の半数に今後10年で住み替え等の意向 ●単身世帯の家族形成や世帯構成の変化、高齢期への備えなど、各世帯が、それぞれのライフスタイルやライフステージに応じて、柔軟に住まい方を選択できる環境整備が必要 	暮らし	2. 多様な世帯の安心・快適な暮らしの実現	(1) ライフスタイルの変化への対応
				(2) ライフステージに応じた住まい方の推進
				(3) 住宅セーフティネットの充実
(3) 住環境	<ul style="list-style-type: none"> ○戸建て、マンション、民間借家共同住宅が調和・共存する複合住宅地 ○生活利便性や安全性への満足度は高く、自然、歴史・文化資源等の区の特徴も一定の評価 ○防犯への関心は高く、地域活動では教養・文化、防犯・防災、生活環境向上への意向あり ●地域の中に存在する様々なタイプの住宅が調和を保って共存し続けるため、地域資源を生かしつつ、快適に安心して住み続けられる住環境を形成し、育んでいく働きかけが必要 		3. 誰もが暮らしたくなる住環境の形成	(1) 魅力ある市街地環境づくり
				(2) 地域のつながりづくり
				(3) 災害に強い地域づくり